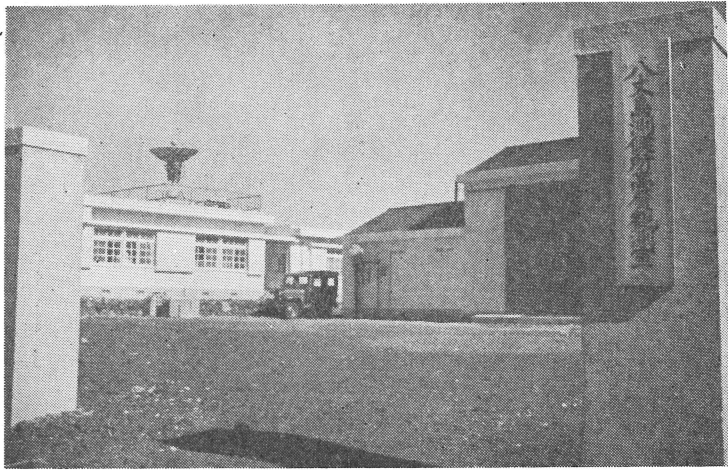


地方だより

八丈島測候所

鳥も通わぬ八丈島流人の島とは知っていても島に水田が有り水力発電のあることを知る人は少いでしょう。八丈島は東京都下と言っても東京を離れること南へ290キロ黒潮暖流に洗われている太平洋上に在る富士火山帯に

く気象観測が継続され近時は日本の観測点でなく世界の観測点としてクローズアップされ24回観測を又地球観測年を期し八丈富士の南大群に高層観測室を設け昭和32年(1957年)7月より高層気象観測を実施しD55Aが設置



八丈島候所高層観測室

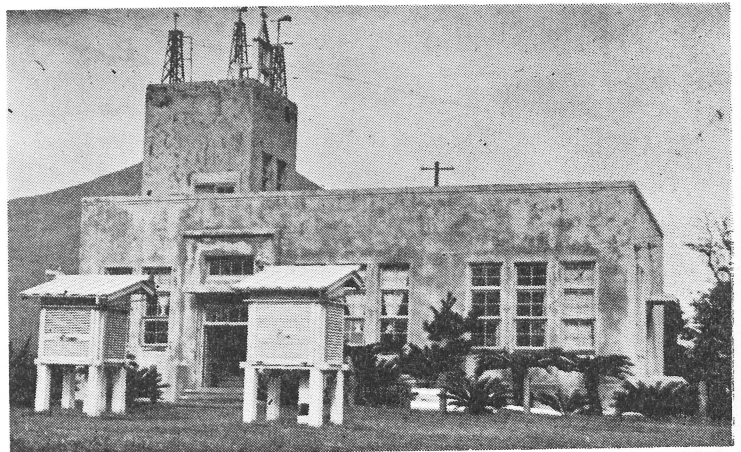
属する休火山の面積70平方キロ弱の小島で一般の交通は東京竹芝埠頭を東海汽船で十数時間を要し黒瀬川と称する黒潮本流は時速5ノット以上で常に風波があり風の航海はまず望めない。

島内の近頃は離島振興が叫ばれ産業や観光事業の建設ブーム一段と活気を帯びている。港湾飛行場道路官公庁舎等の開発建設が進行し航空便あり温泉の試掘も成功しここ2、3年の変はうは鳥島交代者も目を見張る程です。八丈島は多雨強風の地ですが温暖で“へご羊歯”の自生地として本邦の北限をなし其の他の亜熱帯植物が繁茂し南口情緒豊かな観光地としての真価の知られる日も真近い事でしょう。

八丈島測候所は明治39年(1906年)の創立で半世紀の間一日も欠く事な

され今では高高度ゾンデ・エコゾンデの常時観測を行っている。海洋観測ではバンドル津波計を設置、記録をとり(台風22号で破損)又沿岸観測・放射能・地震等の観測種目も多数を受持っている。測候所の機構は2課制37名の大世帯にふくれ旧来の施設ではすべてが皆はみ出る盛況です。へき地というのは、とりもなおさず気象観測点としての重要地点の代名詞で八丈島は今や南方漁業の前哨拠点であり漁業気象の要望が強く予報区域は鳥島から三宅島に亘る南北400キロ以上の広域を担当し梅雨前線や台風進路の第一線で南方

海域島嶼の中枢の観があり八丈漁港完成の暁に於ける測候所の役割は一段と高まり観測より利用への発展が期待されます。



八丈島測候所